

株式会社JRC

(東証グロース:6224)

2024年2月期 通期決算説明資料

2024年4月

<ご注意>

本資料中の業績予想ならびに将来予想は、現在入手可能な情報に基づき、当社の判断により一定の前提の下に作成されており、リスクや不確定要素等の要因が含まれています。そのため、事業環境の変化などのさまざまな要因により、これら会社の将来情報と実際の業績とは大きく乖離する可能性があります。



JAPAN
ROLLER
CORPORATION

目次

01. 会社概要
02. 2024年2月期 決算説明のポイント
03. 2024年2月期 通期決算概要
04. 成長戦略
05. 2025年2月期 業績予想

会社概要

会社名	株式会社JRC（英文社名 JRC Co., Ltd.）
本社所在地	大阪市西区阿波座2-1-1 CAMCO西本町ビル6F
代表者	代表取締役社長 浜口 稔
創業	1961年4月（浜口商店 創業）
設立	1991年3月（株式会社JRC）
資本金	131,415千円（2024年3月13日現在）
従業員	371名（連結）（2024年2月末現在）
事業内容	コンベヤ部品の設計・製造・販売及びコンベヤ設備の運用改善・メンテナンス ロボットを活用した自動設備などの設計・製造・販売
グループ会社	JRC C&M株式会社 株式会社大成 吉艾希商事（瀋陽）貿易有限公司

企業スローガン

発見を、発展へ

Discovery to Development

すべては現場を基本としたリアルから見出し、
まだお客様にない視点での課題の「発見」から、

不をなくすソリューションを通じて

「発展」(JRC・お客様・社会)へと繋げていく意志を

『発見を、発展へ』という

企業スローガンとして表明しています。

ニッチトップ&リカーリング、そしてソリューションで成長・拡大する「コンベヤ部品事業」と
製造業としての経験を活かした高成長な「ロボットSI事業」(ブランド名:ALFIS)の2つの事業を展開

コンベヤ部品事業

ロボットSI事業(ALFIS)

ニッチトップ・リカーリング

高成長

主に屋外用ベルトコンベヤ部品の製造・販売
コンベヤ・ソリューションの提供

使いやすく、導入しやすい、高品質なロボットシステムの開発
ロボットを活用した自動化ソリューションの提供



ローラ(アイドラ)



プーリ



周辺機器



パレタイズ



パラレルリンク



自動機OEM

- 国内コンベヤ部品市場でトップシェア(52%) ※自社調べ
- 部品製造からメンテナンスまで一気通貫で対応可能

- ロボット・周辺機器を統合し、ロボットを可動状態に
- 自社のコンベヤ部品工場自動化で培ったノウハウを活用

顧客課題の発見、ソリューション提供を通じて事業拡大 近年は積極的なM&Aによる事業強化も実現



兵庫県三原郡緑町
(現南あわじ市)に新工場
(現在の本社工場)を設立



シンテゴンテクノロジー(株)より
パラレルリンクロボットSI事業を譲受

大阪で創業
コンベヤ製品の
製造・販売を開始

1961

1965

浜口鉄工(株)へ
改組

1974

北海道に
系列会社設立
(後に吸収合併)

1977

福岡県に
系列会社設立
(後に吸収合併)

1981

日精・鹿児島工場を買取
東京都に系列会社設立
(後に吸収合併)

1989

淡路工場(当時の本社工場)へ
ローラ自動組立ラインを導入し
製品の均一化及び増産体制を整備



1997

1991

(株)JRC設立

2014

ソリューション
営業を開始

2016

商栄機材(株)
(現 JRC C&M(株))を
完全子会社化

2018

(株)大成を
完全子会社化

2018



ロボットSI事業ブランド「ALFIS」の展開を開始
(当社工場における作業のロボット化も推進)

2020

インテグラルが
資本参加

2023

東京証券取引所へ新規上場

2021

2024

東陽工業(株)を
JRC C&M(株)に
吸収合併

2024年2月期 決算説明のポイント

決算説明のポイント

通期実績

第2四半期以降、各事業共に好調に推移し、
売上高、各利益ともに前年を上回り、**3期連続の増収増益**となった

コンベヤ部品事業

ソリューション売上高の拡大と堅調な更新・リプレイス需要に加え、
環境プラント向けソリューションが高水準に推移し、売上高が**3.5%成長**

ロボットSI事業

食品・医薬業界を中心とした旺盛な新規需要の獲得と、
更新・メンテナンス需要の増加により、売上高が**47.8%成長**

2025年2月期 連結業績予想

売上高106.2億円(+12.2%)、営業利益15.8億円(+24.5%)、経常利益16.0億円(+25.9%)、
当期純利益10.6億円(+26.3%)を計画し、**4期連続の増収増益**を目指す

株主還元

2024年2月期の配当は計画通り21円^{*}を予定、
2025年2月期の配当予想は**26円**を計画し、**増配**を目指す ※ 2024年5月28日開催の第33期定時株主総会決議により確定

2024年2月期 通期決算概要

連結 通期業績ハイライト

売上高

過去最高

前期比(増減)

9,473 百万円

+5.7% (+512百万円)

事業計画

計画未達

達成率

9,541 百万円

99.3%

営業利益

過去最高

前期比(増減)

1,270 百万円

+1.5% (+18百万円)

事業計画

計画未達

達成率

1,364 百万円

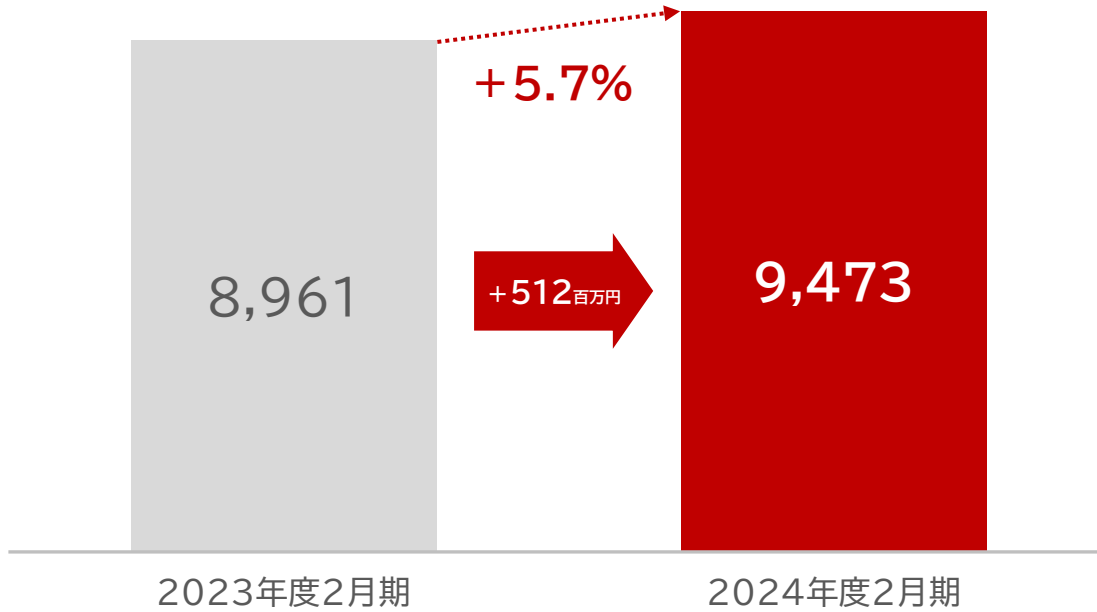
93.1%

- ソリューション売上高の増加と、ロボットSI事業の黒字転換により増収増益(3期連続)
- 事業計画には届かずも、過去最高の業績で着地

連結売上高・営業利益の推移(通期)

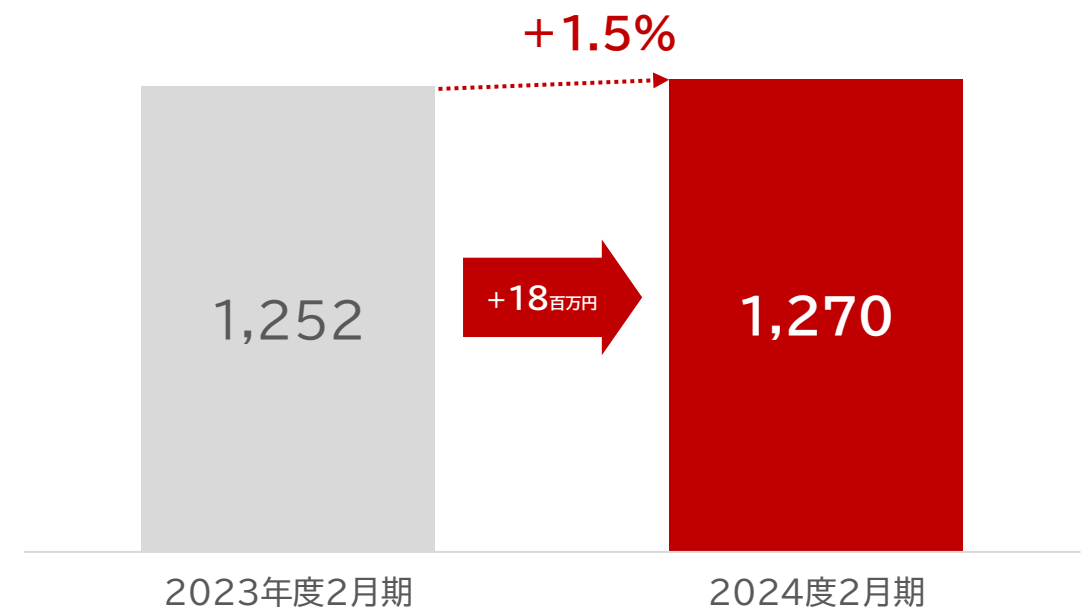
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)

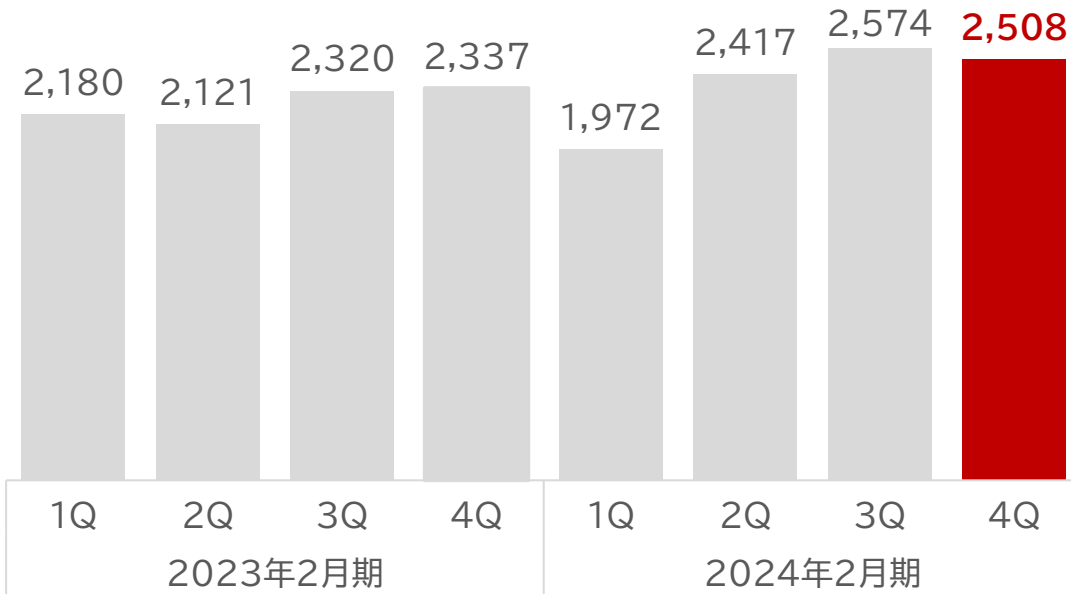


2018年の事業開始以降、ロボットSI事業として初の黒字化達成

連結売上高・営業利益の推移(四半期)

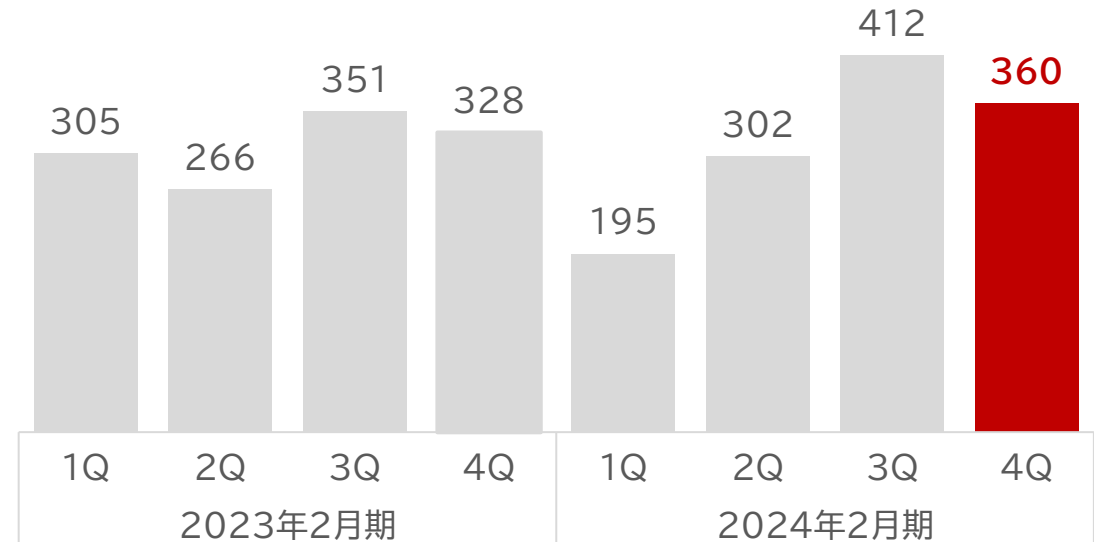
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



スロースタートとなったものの、第2四半期以降は前年実績を上回る勢いで推移

連結損益計算書

(単位:百万円)

	2023年2月期					2024年2月期					事業 計画	達成率	前期比
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期			
売上高	2,180	2,121	2,320	2,337	8,961	1,972	2,417	2,574	2,508	9,473	9,541	99.3 %	+512
売上総利益	728	704	792	798	3,023	652	784	909	867	3,213	3,350	95.9 %	+189
売上総利益率	33.4 %	33.2 %	34.1 %	34.2 %	33.7 %	33.1 %	32.4 %	35.3 %	34.6 %	33.9 %	35.1 %	—	+0.2 Pt
営業利益	305	266	351	328	1,252	195	302	412	360	1,270	1,364	93.1 %	+18
営業利益率	14.0 %	12.5 %	15.1 %	14.1 %	14.0 %	9.9 %	12.5 %	16.0 %	14.4 %	13.4 %	14.3 %	—	△0.6 Pt
経常利益	309	275	356	328	1,270	191	308	412	360	1,273	1,354	94.0 %	+3
当期純利益	211	189	248	181	830	127	166	279	273	847	910	93.0 %	+16
EBITDA	362	324	410	388	1,486	251	359	470	421	1,502	1,628	92.3 %	+16

コンベヤ部品事業 通期業績ハイライト

売上高

過去最高

前期比(増減)

8,756 百万円

+3.5% (+299百万円)

事業計画

計画未達

達成率

8,801 百万円

99.5%

営業利益

過去最高

前期比(増減)

1,285 百万円

+1.6% (+20百万円)

事業計画

計画未達

達成率

1,354 百万円

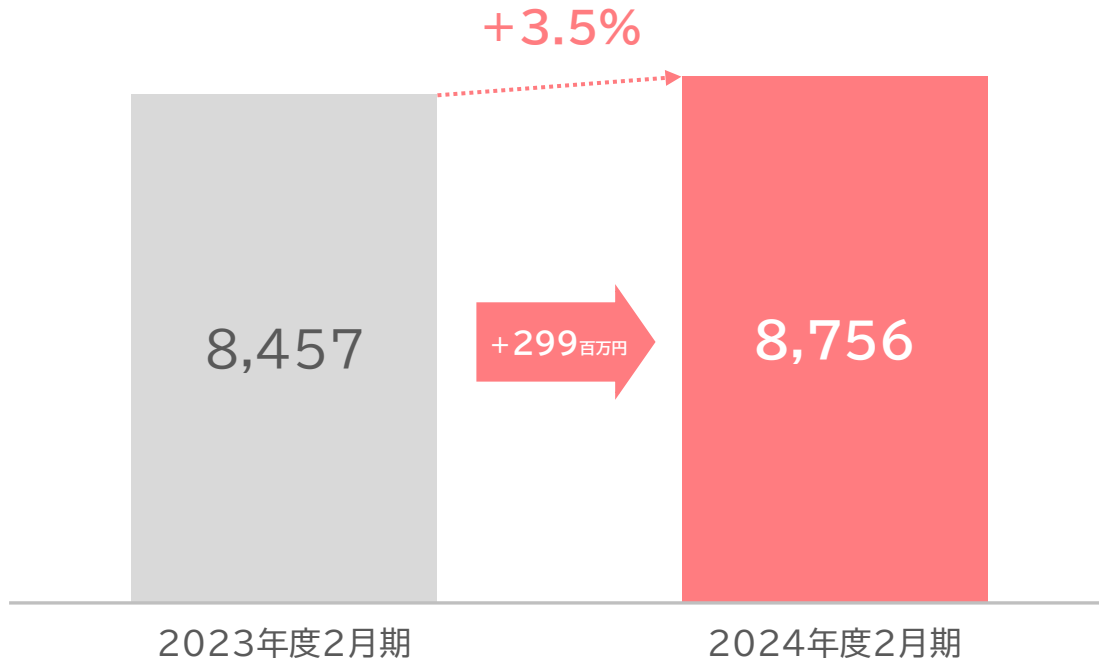
94.9%

ソリューション売上高拡大を背景に、堅調な更新・リプレイス需要や
JRC C&Mが提供する「環境プラント向けソリューション」が増収増益に寄与

コンベヤ部品事業 売上高・営業利益の推移(通期)

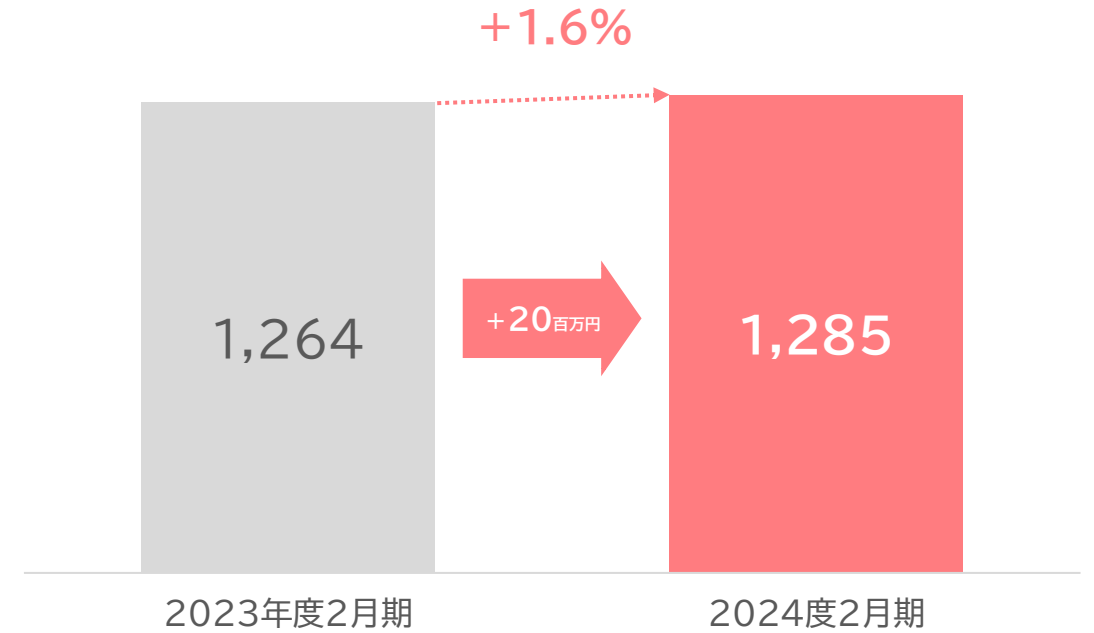
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)

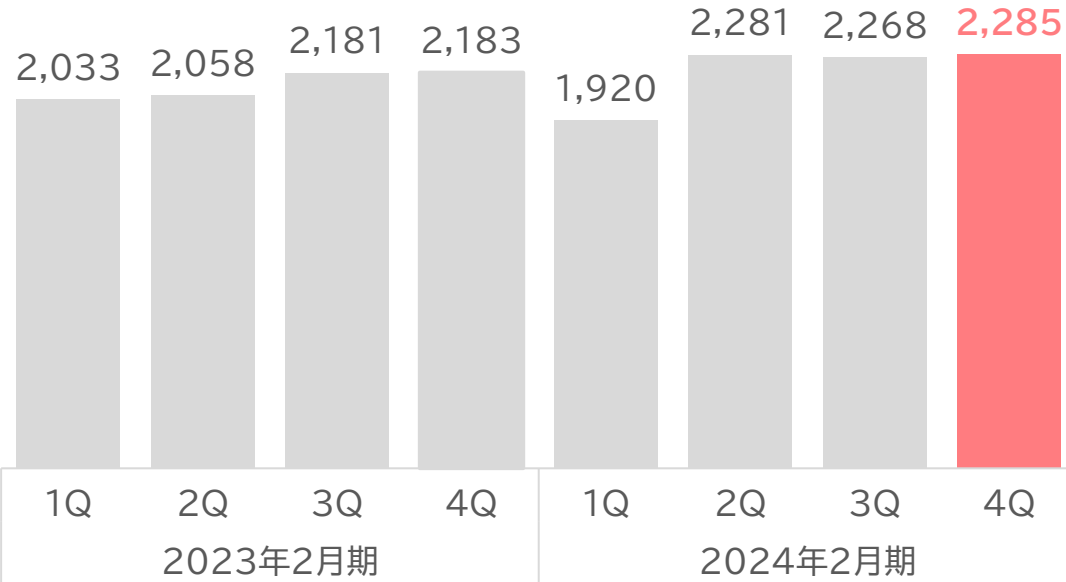


原材料費等が高騰するなかで、価格改定やコストダウンなどを進め、利益確保に注力

コンベヤ部品事業 売上高・営業利益の推移(四半期)

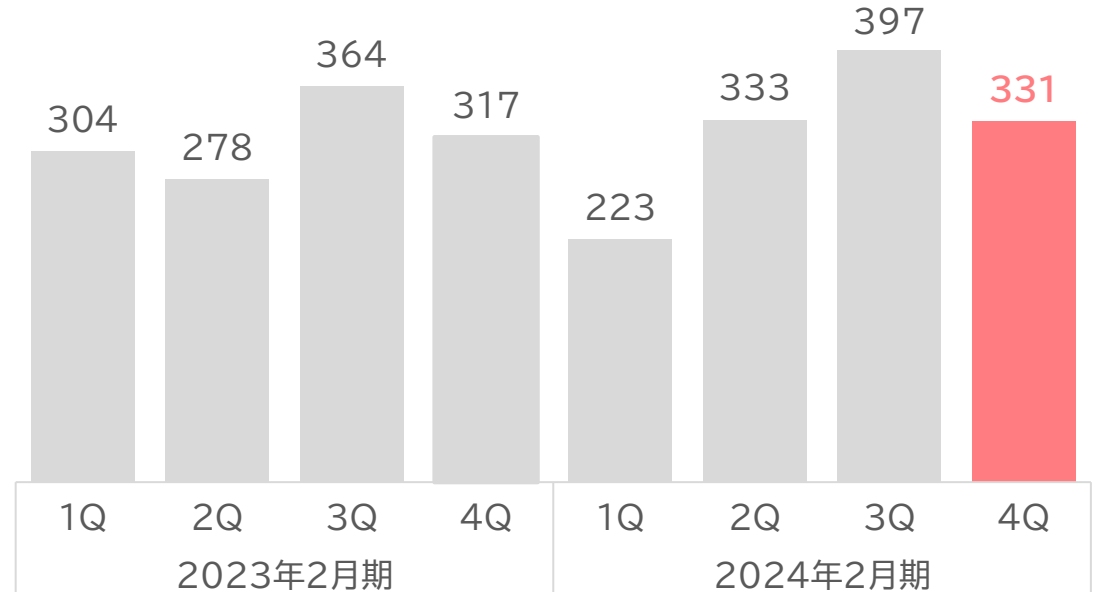
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)

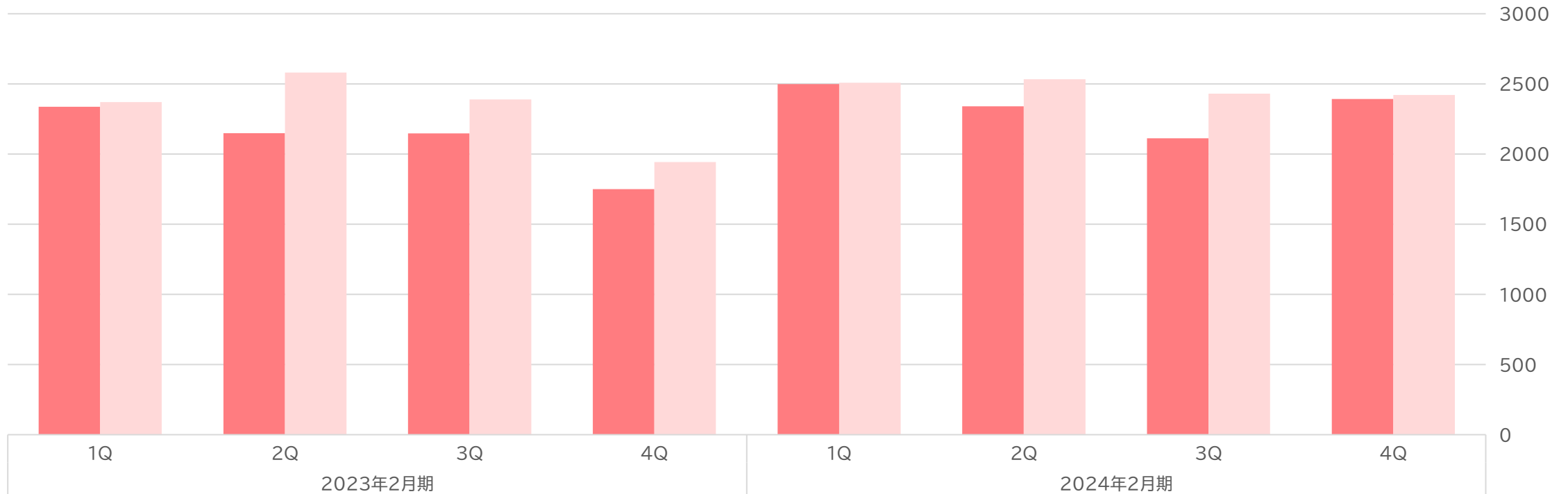


第2、第4四半期は売上高が、第3四半期は営業利益が過去最高を記録

コンベヤ部品事業 受注状況の推移(四半期)

(単位:百万円)

■ 受注高 ■ 受注残高



高水準で推移する国内需要とともに、海外ユーザーからの大型受注を獲得

ロボットSI事業 通期業績ハイライト

売上高

過去最高

前期比(増減)

744百万円

+47.8% (+240百万円)

事業計画

計画達成

達成率

739百万円

100.6%

営業利益

黒字化

前期比(増減)

1百万円

+13百万円

事業計画

計画未達

達成率

10百万円

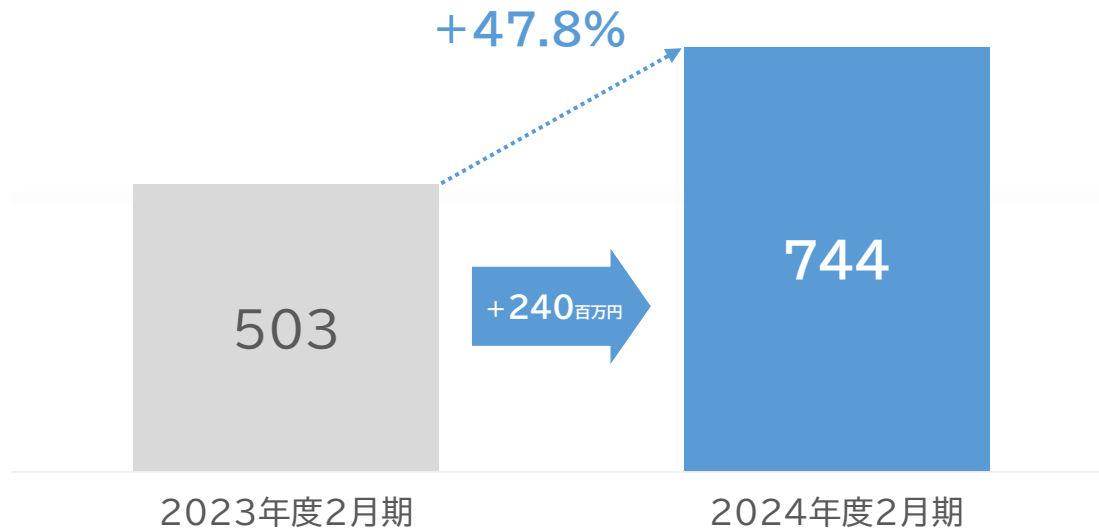
15.0%

- ・ 食品・医薬業界向けを中心に売上計画達成(前期比47.8%増加)
- ・ 利益計画は未達となったものの、事業6年目で初の黒字化達成

ロボットSI事業 売上高・営業利益の推移(通期)

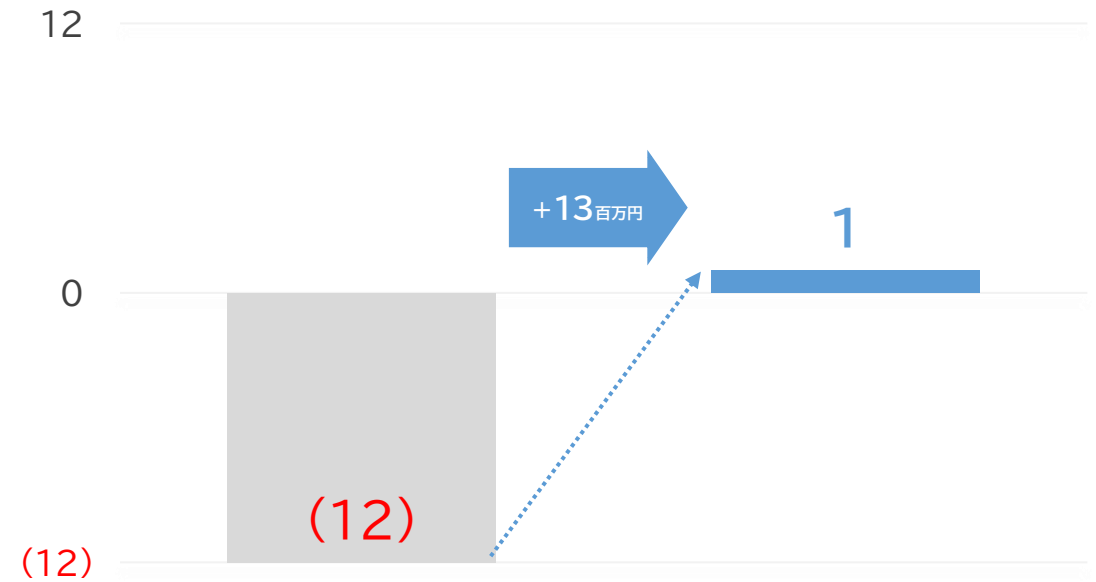
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)

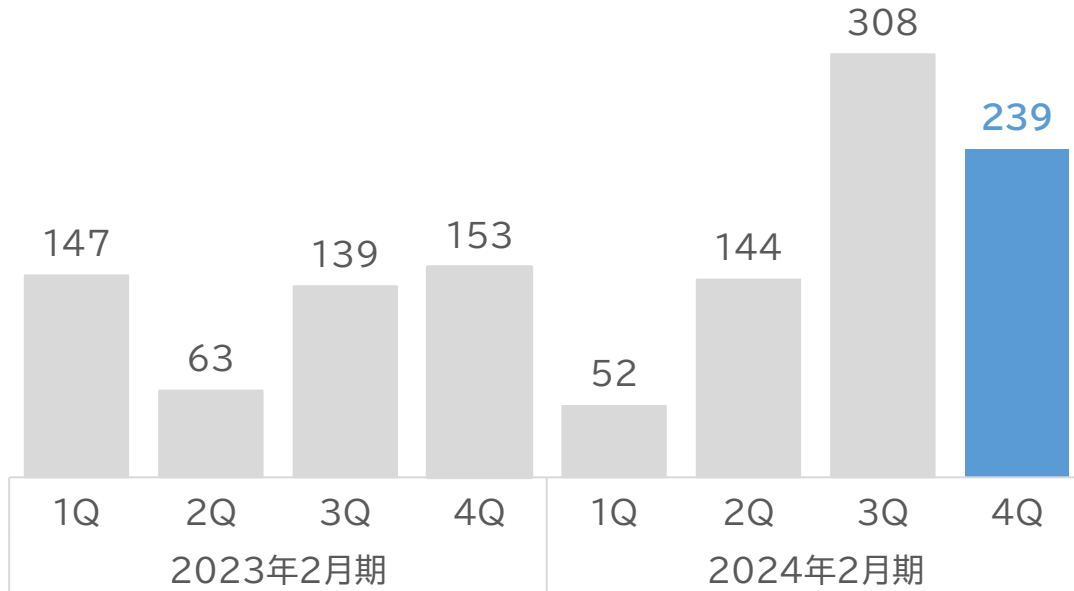


半導体不足等によるコストアップやリードタイムが長引くなか、急角度で成長

ロボットSI事業 売上高・営業利益の推移(四半期)

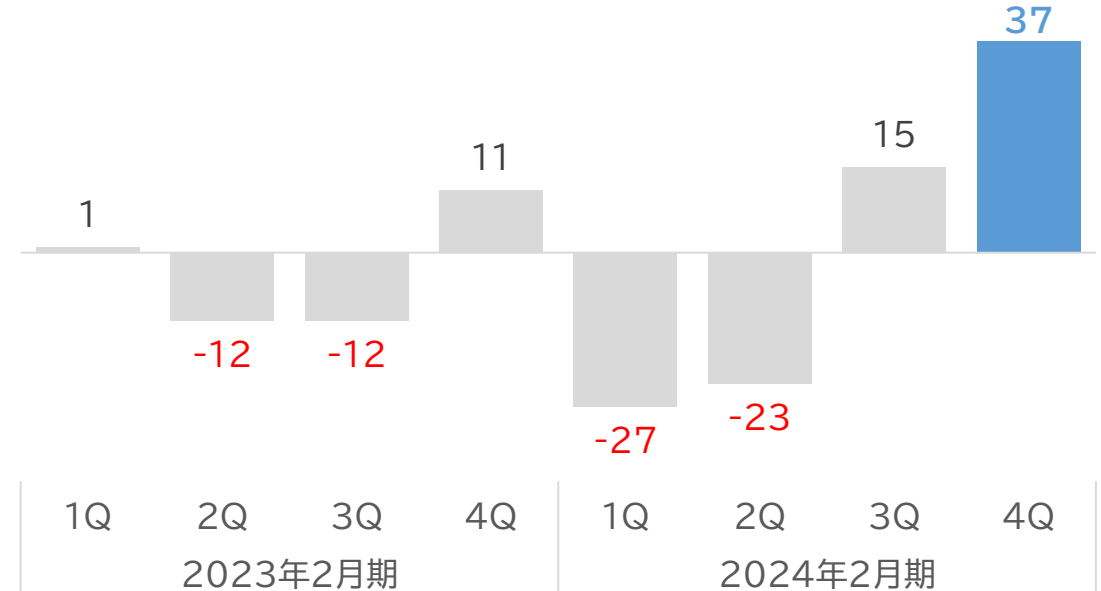
売上高

(単位:百万円)



営業利益

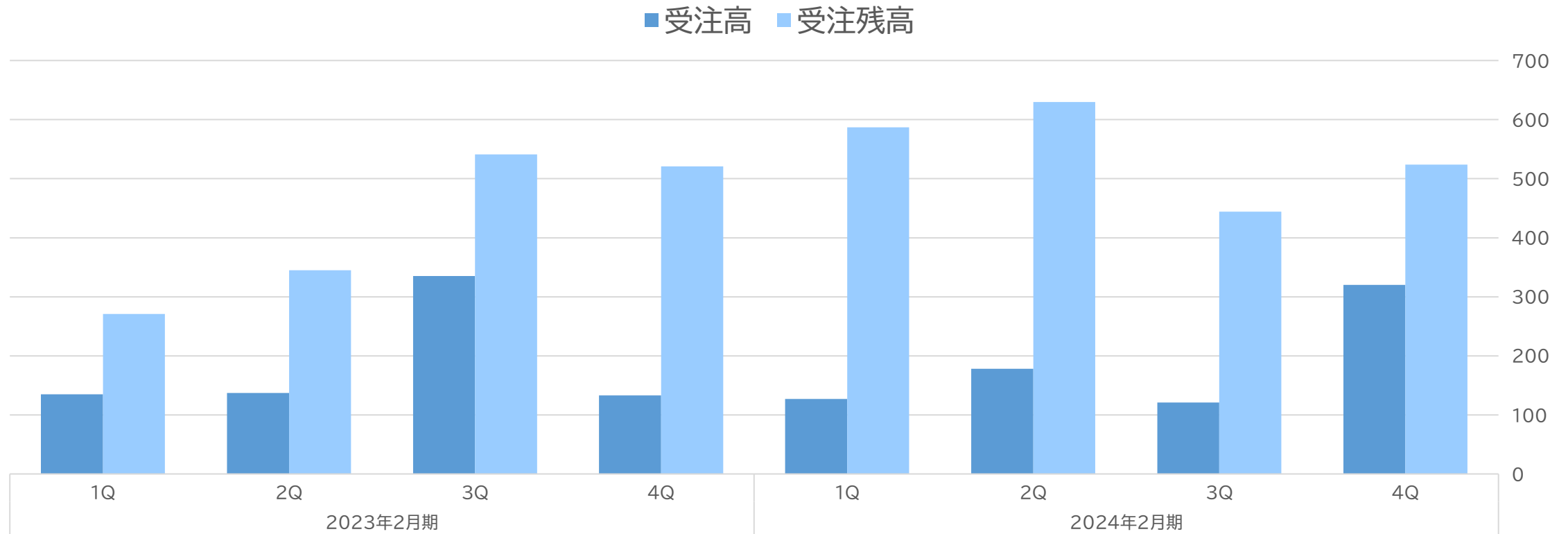
(単位:百万円)



価格設定の適正化やプロダクトミックスの改善が進み、収益性が改善

ロボットSI事業 受注状況の推移(四半期)

(単位:百万円)



食品・医薬業界を中心とした力強い需要を背景に、翌期につながるリピート受注が増加

連結貸借対照表

(単位:百万円)

資 産	2023年2月末	2024年2月末	前期末比
流動資産	5,939	6,332	+392
固定資産	4,022	3,722	△299
有形固定資産	3,069	2,971	△98
無形固定資産	49	151	+101
投資その他資産	902	599	△302
資産合計	9,962	10,055	+92

(単位:百万円)

負 債	2023年2月末	2024年2月末	前期末比
流動負債	2,967	2,914	△53
固定負債	3,544	3,343	△200
負債合計	6,512	6,257	△254
純資産			
純資産合計	3,450	3,797	+347
自己資本比率	34.6%	37.8%	+3.2pt

<主な増減項目>

資 産

・現金及び預金	△187
・売掛金	+383
・繰延税金資産	△365

負債・純資産

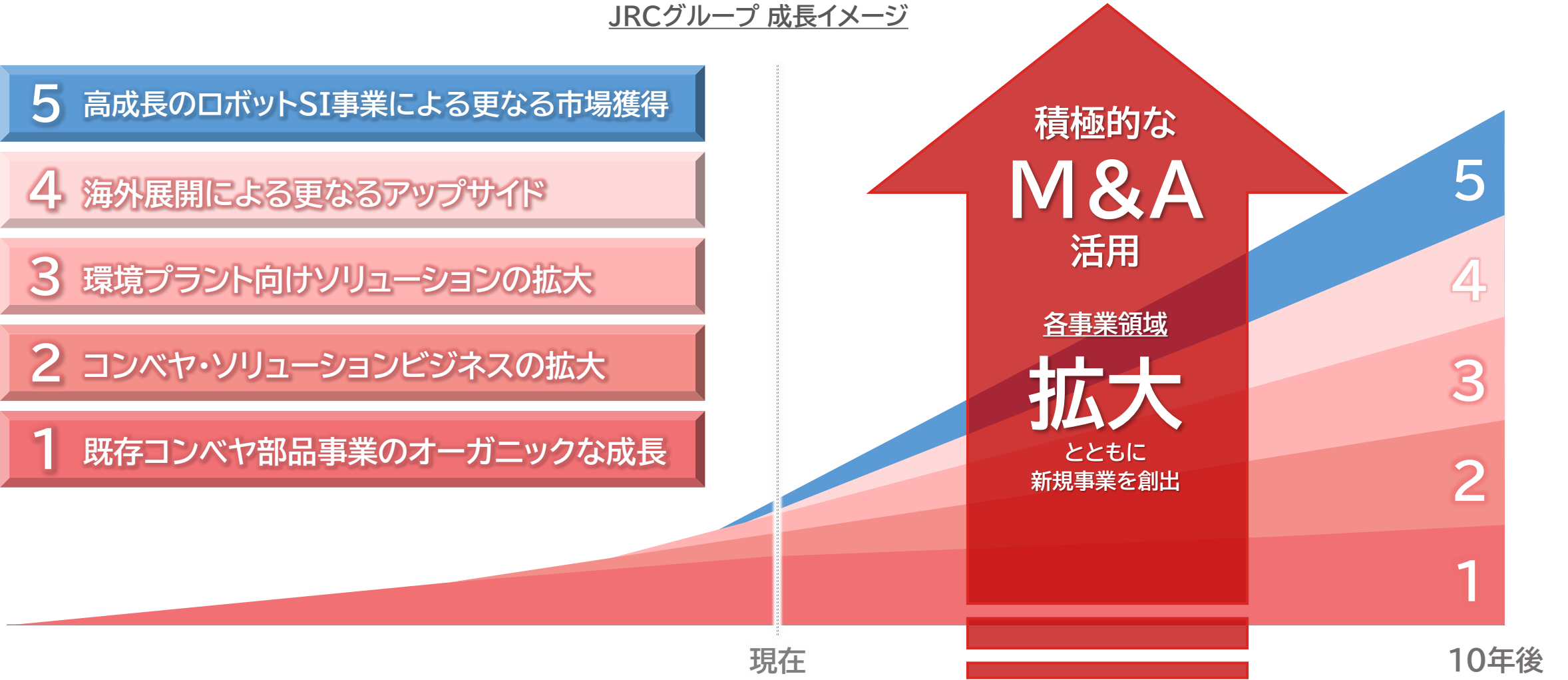
・未払法人税等	△357
・長期借入金	△285
・利益剰余金	+747

成長戦略

中長期的にJRCグループが目指す姿

JRCグループ 成長イメージ

- 5 高成長のロボットSI事業による更なる市場獲得
- 4 海外展開による更なるアップサイド
- 3 環境プラント向けソリューションの拡大
- 2 コンベヤ・ソリューションビジネスの拡大
- 1 既存コンベヤ部品事業のオーガニックな成長



「コンバヤ・ソリューションビジネス」の代理店への展開を本格化

ソリューションの「標準パッケージ化」に注力

2024年2月期は工事サービス受注も伸長

2025年2月期はJRCソリューションの代理店パートナーへの展開を本格化

2014年の
ソリューション
営業開始から

10年

JRC固有の
ソリューション
ノウハウが
蓄積



点検



点検報告



製品納入



取付・設置



試運転調整

機能品の拡販(モノ)だけでなく、

ユーザーの安定稼働・効率化を実現する

サービス(コト)まで展開

ユーザーニーズに基づく
JRC独自の機能品を多数開発



特許・実用新案登録

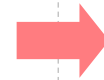
67件

(2023年3月時点)

よくあるトラブルへの
対策方法をパッケージ化



代理店向けツール制作



工事サービス年間売上目標1億円に対して

1.5億円を達成 (達成率:150%)

ソリューションの幅に更なる拡がり

ソリューション支援スマホアプリ

ジェイ・ガジェット

J-GADGET

これまではJRCの
営業マンが現場で活用



ターゲットとする代理店へ展開
ソリューションパートナー契約へ
(2024年5月頃～順次)



日本全国の強固な代理店網を活用し
ソリューション未開拓のユーザー
(全体の8割)にアプローチ強化へ

機能品(モノ)の拡販体制を確立

日本全国対応可能な「環境プラント向けソリューション」の拡大

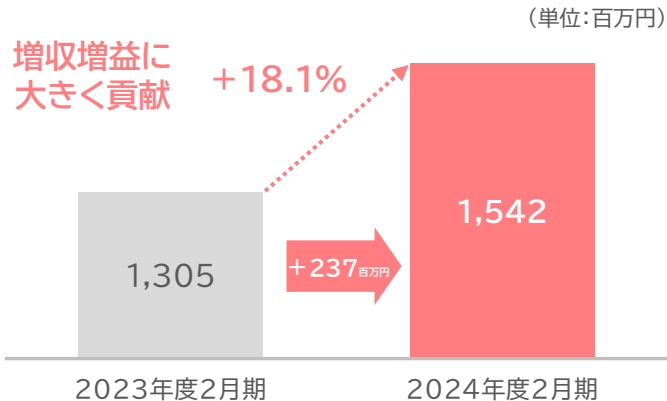
2024年2月期は当社子会社が提供する「環境プラント向けソリューション」が伸長

当社連結子会社 **JRCC&M**
JRC C&M株式会社 JRCコンベヤ&メンテナンス

事業内容: 環境プラント向けコンベヤの設計・製造・据付・メンテナンス



2024年2月期 売上高 (JRC C&M 単体)



【M&Aを実施】 2023年12月末、JRC C&Mが「東陽工業」(福島県本宮市)を子会社化
製造領域×販売エリアの「ダブル拡大」でシナジーを最大化

2025年2月期は更なる収益拡大へ



東陽工業株式会社(現:JRC C&M 福島工場)

事業内容: 福島県本宮市。ごみ焼却施設やバイオマス発電施設、火力発電所などのボイラー関連製品(煙道ダクトやケーシング等)の製造販売。2024年3月、吸収合併により、現在はJRC C&M 福島工場。



環境プラント内のコンベヤ設備(搬送設備)のみならず
その付帯・周辺設備までワンストップで製造対応が可能に



双方の経験・技術・ノウハウと顧客基盤を共有
クロスセルを行うことで新規顧客にアプローチ

海外展開を本格化 ～2025年2月期は東南アジア拠点の設立を計画～

東南アジア向けの大型輸出案件による海外実績が顕在化

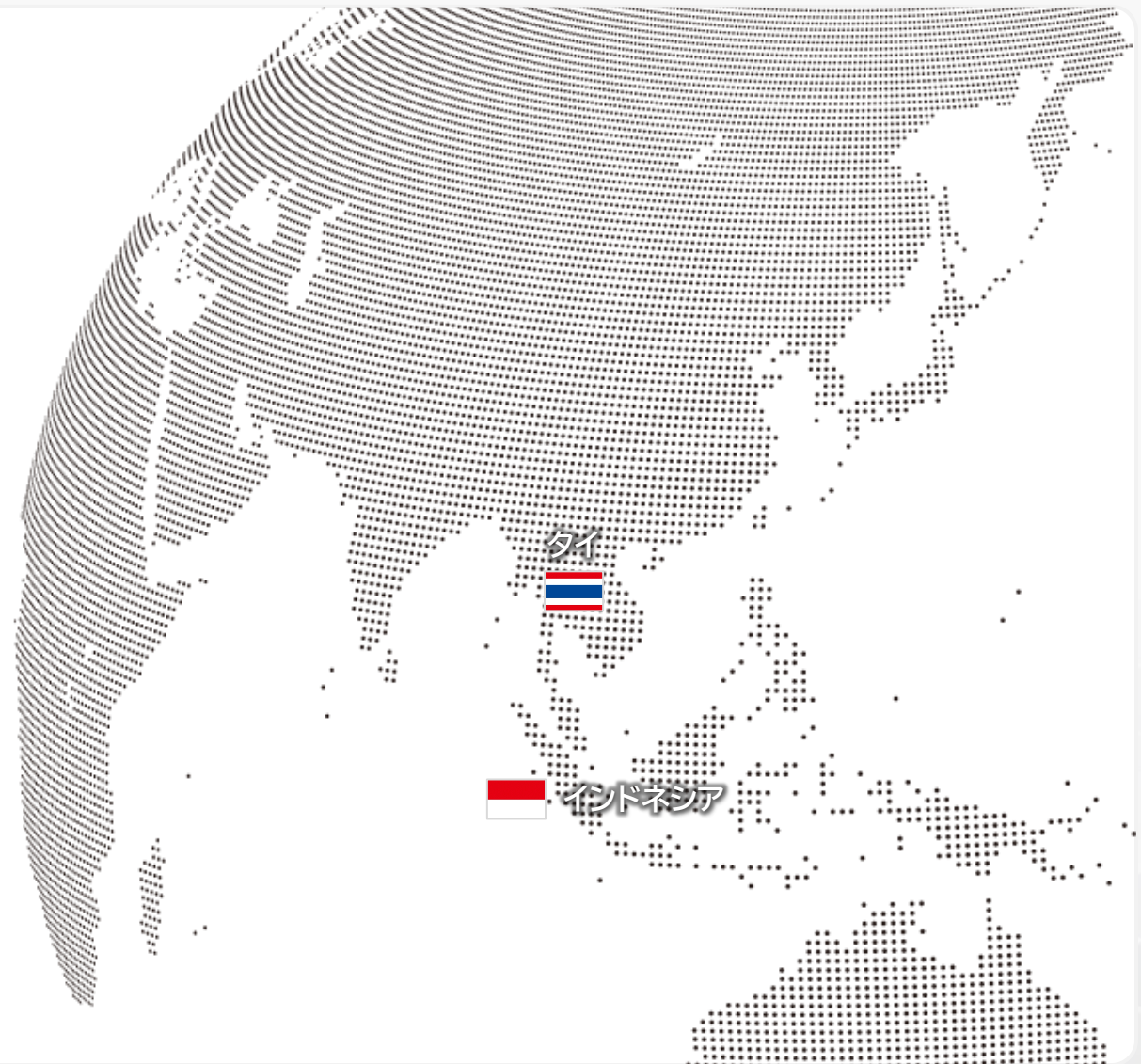
2024年2月期

インドネシア石炭鉱山向け
大型案件(約3億円)等の輸出案件を複数受注
(2025年2月期 売上計上予定)

2025年2月期

タイ国営発電所向け案件及び
インドネシア向け大型案件(約2億円)等の
輸出案件を受注済み
(2025年2月期 売上計上予定)

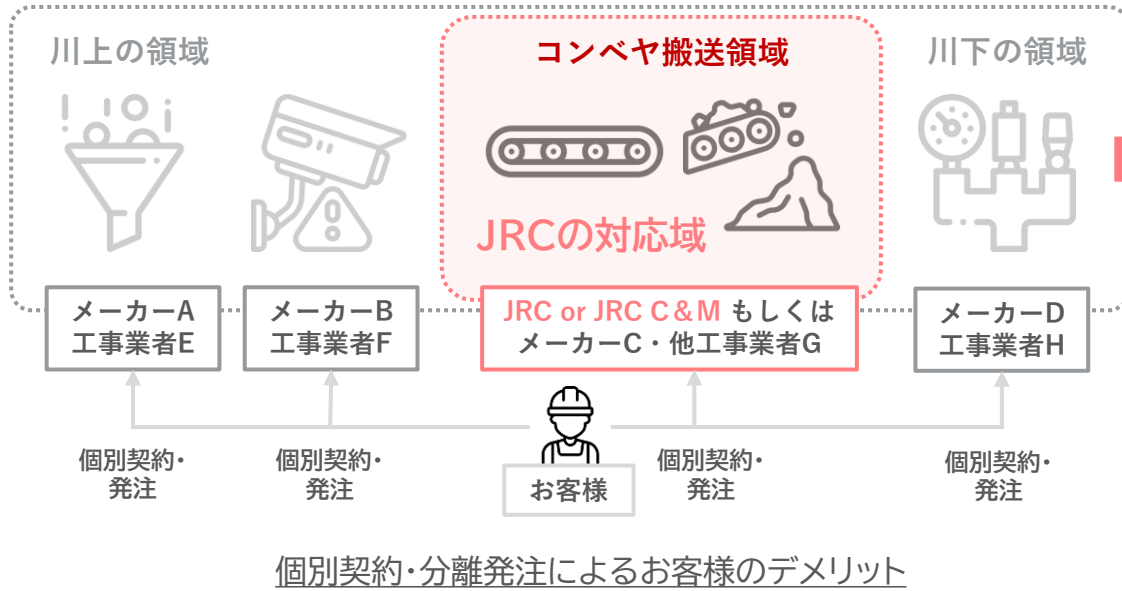
2025年2月期は、東南アジアでの海外展開本格化に向け、
東南アジア拠点(タイもしくはインドネシアを予定)設立を計画



【M&A戦略】圧倒的一強の「コンベヤ周辺＝JRC」実現で更なる顧客貢献へ

現状

- コンベヤ(搬送領域)へのソリューション提供者としての役割
- コンベヤ(搬送領域)以外の周辺領域には限定的な関与



- × リソース不足
- × 統一的な品質管理が困難
- × 作業調整が煩雑
- × 契約管理の増加
- × 専門知識不足
- × 分離発注による高コスト
- × ノウハウの分断
- × そもそも対応外

目指す姿

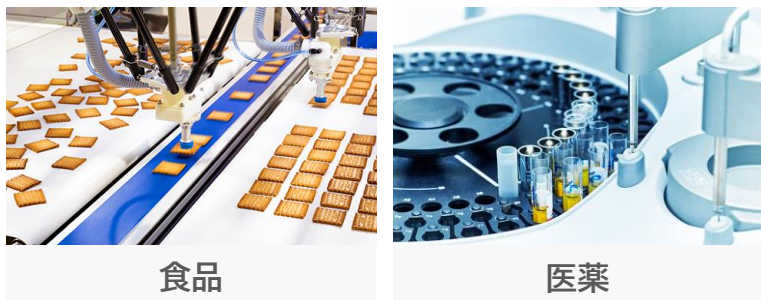
コンベヤ及び周辺領域でのM&Aを活用し、川上から川下までの一気通貫トータルソリューションの提供能力を拡大



広範囲にわたる製品やサービスを提供できる企業として
ブランド価値・顧客満足度を向上させ、競争優位性を確立

売上伸長の「食品・医薬」領域へのロボットパッケージの横展開・拡販を強化

急成長市場の主体「食品・医薬」



共通する課題と実態

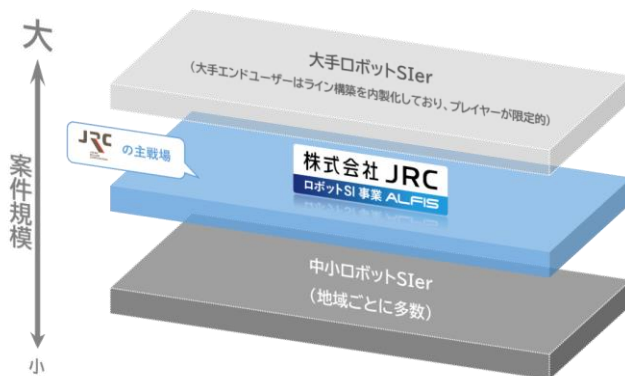
未だに人手作業に依存する現場が極めて多く
近年、特に労働人口減少の影響を受けている



多品種少量かつ衛生対応等の面からロボット化・
自動化は大きく進んでいない(特に搬送工程)

ALFISは「食品・医薬」領域での多品種少量
かつ衛生対応でのロボット化・自動化の
知見・実績を有する(アドバンテージ保有)

競合SIerの参入しづらい隙間市場



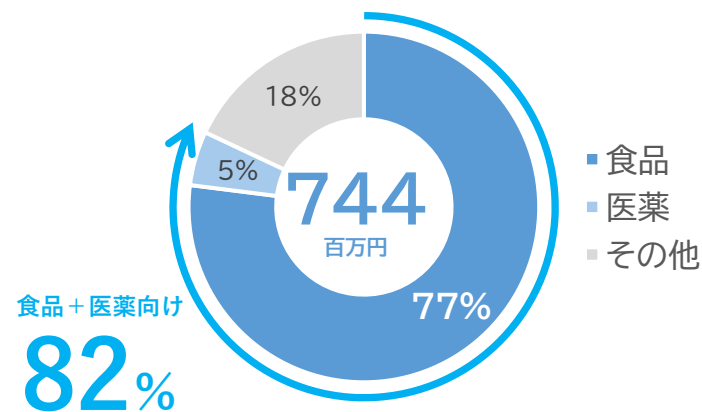
ALFISが主戦場とする「急成長市場」への参入障壁

- 大手** 案件規模が小さく、強みが発揮できない
- 中小**
 - 特定顧客へのカスタマイズ対応で繁忙
 - 標準化のリソース不足 (一品一葉が多い)

急成長市場への参入ハードルは高く
競争は限定的で当社に優位性あり

食品・医薬向けが全売上の82%

2024年2月期 ロボットSI事業 売上高構成比



食品 + 医薬向け

82%

- ・大手食品メーカー各社からの引合いも増加
- ・食品・医薬領域での自動化知見が一層深化

独自のポジショニングを明確化し
売上シェア拡大を加速させる

再生医療・ラボ領域におけるロボット自動化で3社協業プロジェクトを開始

「ロボット搭載アイソレーション・クリーンベンチ」を ダルトン、ストーブリ、JRCの3社で共同開発



研究者の手による分注作業(イメージ)

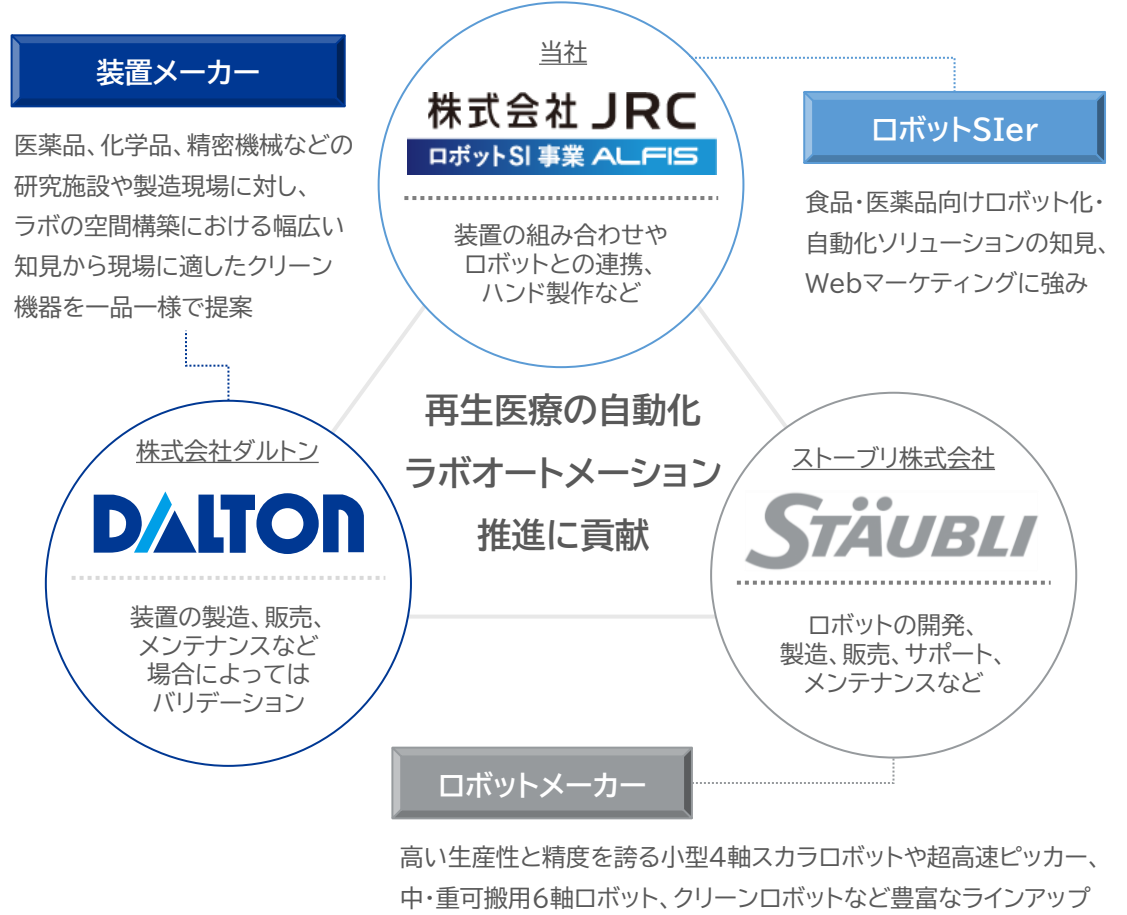


アイソレータ庫内にロボットを組み込み
高浄度環境下でのラボ作業を自動化

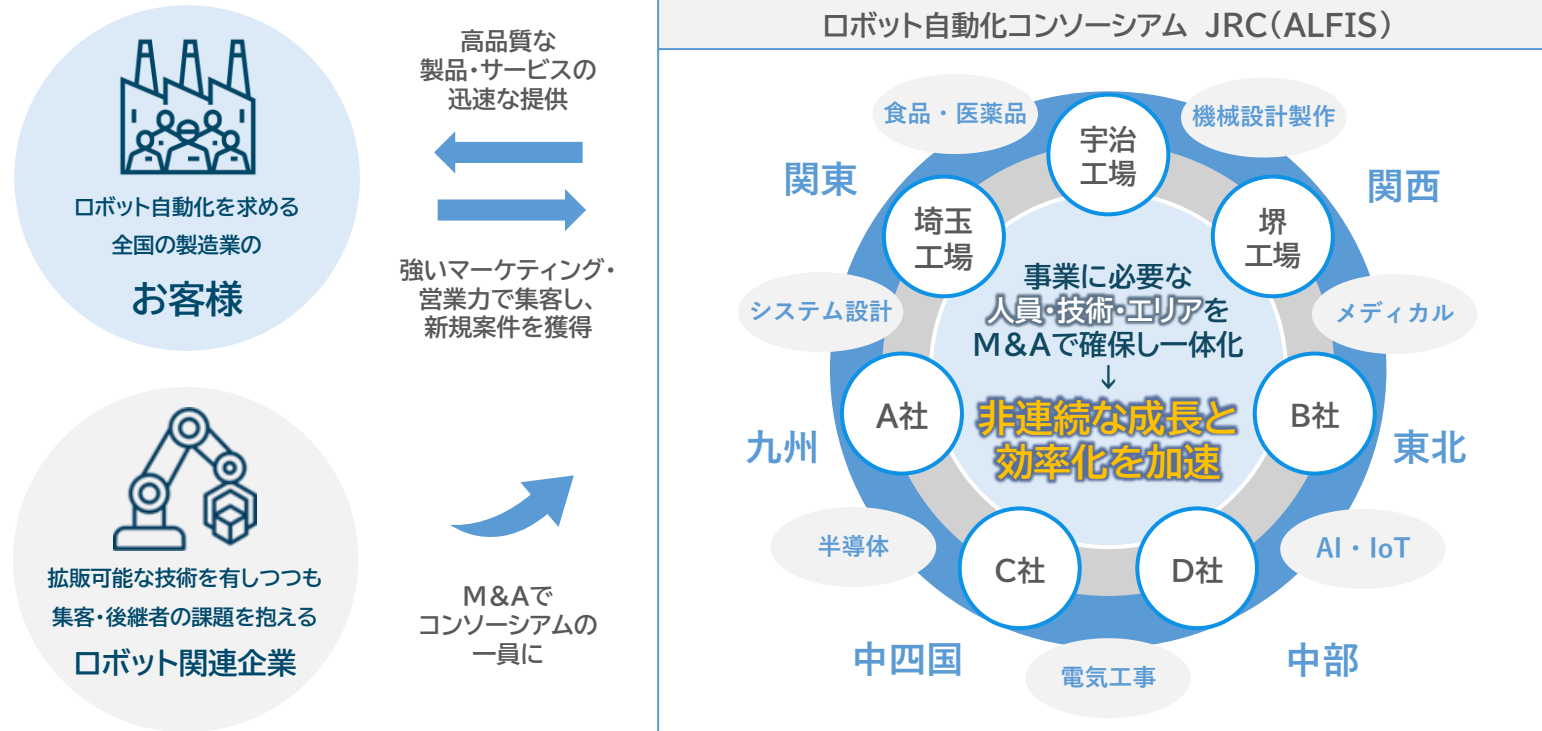
リスク低減と作業性向上、研究者の負担軽減を実現



本協業における3社の役割とそれぞれの強み



【M&A戦略】ロボット自動化コンソーシアム化で人員・技術・エリアを拡充



① 稼働率を平準化

需要予測に基づいて、全国拠点間での人員配置の最適化と稼働率の標準化を図り、繁閑の差を吸収。コンソーシアム全体の効率性を向上させる。

② 技術の一体提供

M&Aで獲得した企業同士の専門技術を融合させ、高度なソリューションを実現。顧客に対する総合的かつ高品質なサービスを提供し市場優位性を確保。

③ 全国規模で対応

戦略対象の地域に拠点をもち企業のM&Aにより、地理的制約を解消し、納期短縮やサービス向上を実現。日本全国をカバーし、市場競争力を高める。

拡販可能な技術を有しながらも、集客や後継者の課題を抱えるロボット関連企業を対象にM&Aを実施
多様な人員、尖った技術、広範なエリアをカバーする「ロボット自動化コンソーシアム・JRC(ALFIS)」へ

2025年2月期 業績予想

2025年2月期連結業績の見通し

(単位:百万円)

	2023年 2月期実績	2024年 2月期実績	2025年2月期連結業績予想			前期比	
			上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	8,961	9,473	5,049	5,577	10,627	+1,153	+12.2%
コンベヤ部品事業	8,457	8,756	4,690	4,983	9,673	+916	+10.5%
ロボットSI事業	503	744	359	594	953	+209	+28.1%
売上総利益	3,023	3,213	1,810	2,014	3,824	+611	+19.0%
売上総利益率	33.7%	33.9%	35.8%	36.1%	36.0%	-	+2.3pt
営業利益	1,252	1,270	691	890	1,582	+311	+24.5%
コンベヤ部品事業	1,264	1,285	700	811	1,511	+226	17.6%
ロボットSI事業	△12	1	△9	79	70	+68	-
営業利益率	14.0%	13.4%	13.7%	16.0%	14.9%	-	+1.5pt
経常利益	1,270	1,273	700	904	1,604	+330	+25.9%
当期純利益	830	847	462	606	1,069	+222	+26.3%

2025年2月期連結業績は、4期連続の増収増益に加え、増配を目指す

KPI進捗及び計画

(単位:百万円)

		2023年2月期	2024年2月期			2025年2月期
		実績	計画	実績	達成率	計画
全社	売上高	8,961	9,541	9,473	99.3%	10,627
	営業利益	1,252	1,364	1,270	93.1%	1,582
	営業利益率	14.0%	14.3%	13.4%	△0.9Pt	14.9%
コンベヤ部品事業	ソリューション売上高	1,110	1,260	1,483	117.7%	1,656
	ソリューション売上高比率	15.9%	17.5%	21.1%	+3.6Pt	23.0%
ロボットSI事業	受注高	741	1,082	748	69.2%	1,200
	営業利益	△12	10	1	15.0%	70

2025年2月期においてもチャレンジングなKPIを設定し、力強い成長を目指す

株主還元

基本方針・配当予想

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要課題の一つと認識し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、**継続的かつ安定した配当**を行うことを基本方針とし、連結配当性向**30%**程度を目安に配当の実施を目指してまいります。

2025年2月期の配当につきましては、期末配当として1株当たり26円を予定しております。

	2023年2月期	2024年2月期	2025年2月期予想
1株当たり配当金	158円48銭 ※1(7円92銭)	21円	26円
配当性向	12.0%	31.3%	29.5%

※1 当社は、2023年6月16日付で普通株式1株につき20株の株式分割を行っていることから、2023年2月期実績の1株当たり配当金については、参考として()内に当該株式分割を考慮した数値を記載しております。

※2 当社は、2024年2月16日付で当社普通株式693,500株を取得したため、保有する自己株式が696,360株となりました。

※3 2024年5月28日開催の第33期定時株主総会決議により確定します。